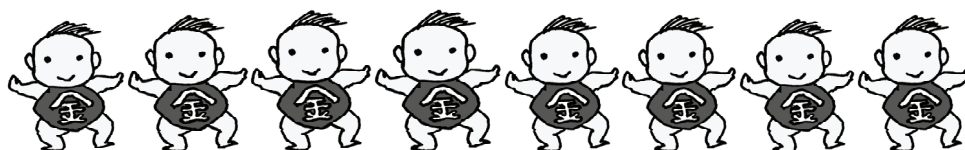


第 8 章 資料編



第8章 資料編

8-1 市の自然的特性

8-1-1 地勢

小金井市は、東京都のほぼ中央、東京駅から西へ約 25km の距離に位置している。昭和 33 年(1958 年)10 月 1 日に市制を施行し、東京都で 10 番目の市になった。面積 11.33km² の中に現在は約 11 万人を超える人が暮しており、都心に近いながらも、小金井公園、武蔵野公園、野川公園があり、豊かな自然環境に恵まれた快適都市である。

地域は「はげ」と呼ばれる 15m 程度の国分寺崖線で分けられた 2 つの段丘面により構成され、国分寺崖線の礫層中に涵養した地下水が湧水となり野川に流入している。

武蔵野段丘面に玉川上水、仙川、砂川用水、立川段丘面に野川がある。

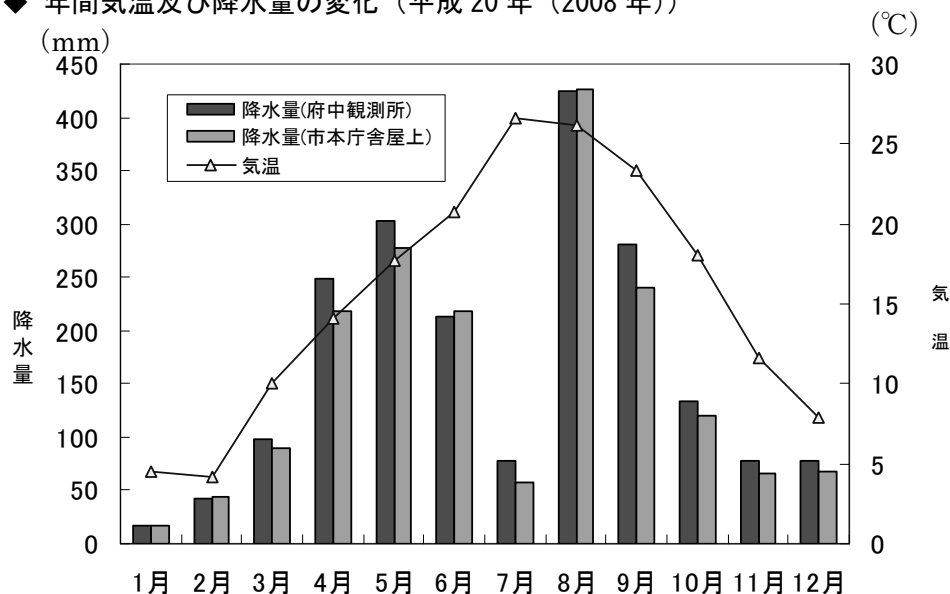
8-1-2 気候・気象

小金井市の気候・気象について、「①年間気温及び降水量の変化」、「②気温及び降水量の経年変化」、「③熱帯夜及び真夏日の発生日数の変化」を以下に示す。

①年間気温及び降水量の変化、気温及び降水量の経年変化

小金井市周辺では 7～8 月にかけて気温が高い傾向を示している。降水量に関しては 4～6 月及び 8～9 月が高い値を示している。

◆ 年間気温及び降水量の変化 (平成 20 年 (2008 年))

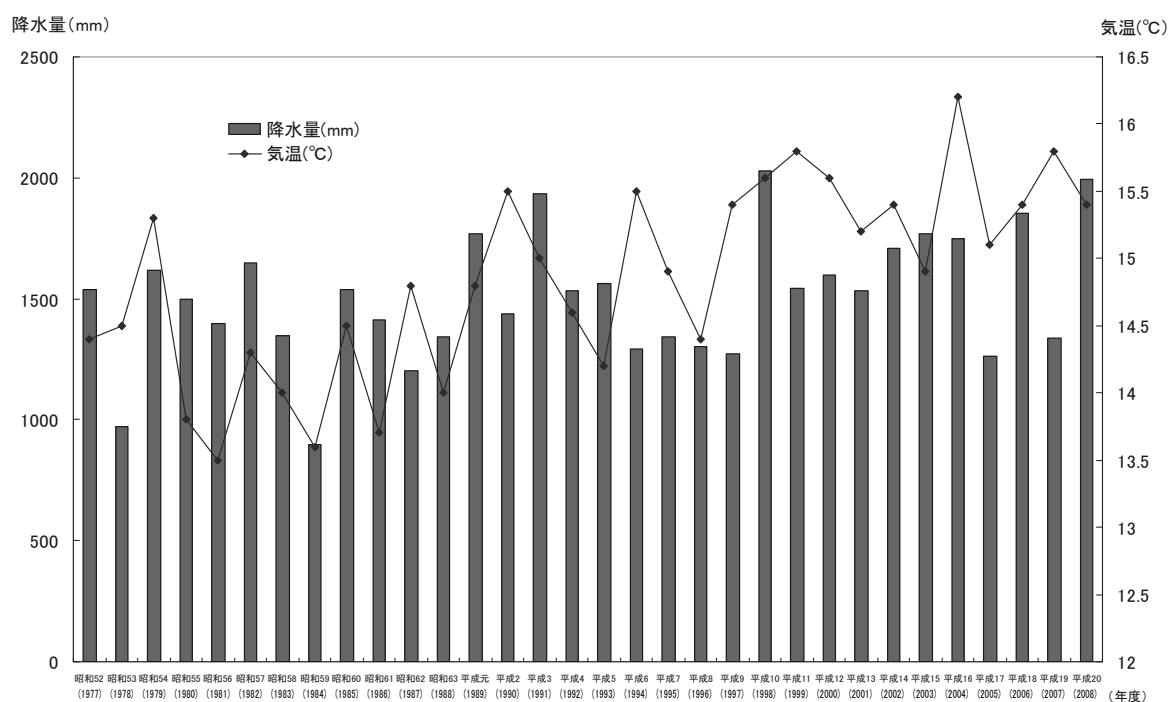


出典：府中観測所は気象庁ホームページより作成 (※3月6日 10時～3月7日 12時欠測)
市本庁舎屋上は市調査データより作成

②気温及び降水量の経年変化

年間平均気温は 1980 年代から徐々に上昇しており、約 20 年で 1.5℃近く上昇している。降水量について大きな変化は見られない。

◆ 気温及び降水量の経年変化（府中観測所）



出典：気象庁ホームページより作成

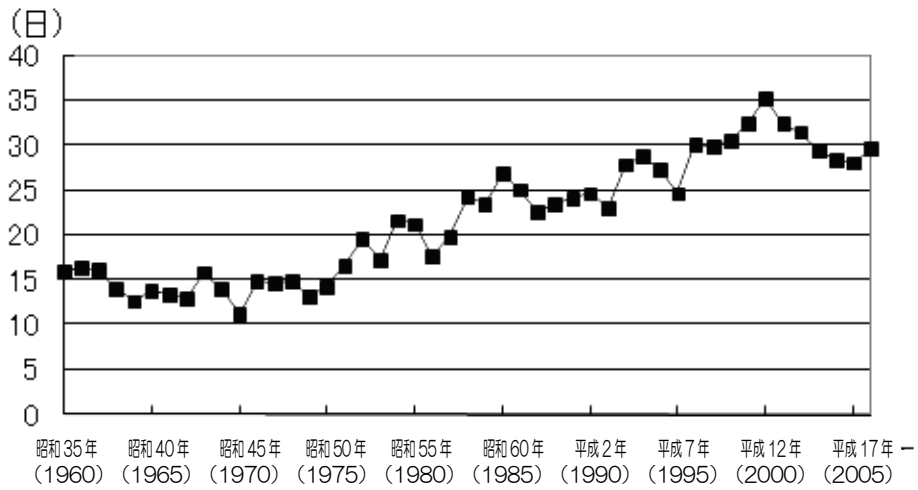
③熱帯夜の発生日数及び真夏日の変化

東京都における熱帯夜の発生日の経年変化、関東地方における 30℃を超えた延べ時間数の広がりを見次頁に示す。

熱帯夜（日最低気温が 25℃より下がらない日）の発生日数は、昭和 50 年代前半（1970 年代後半）から確実に増加している。熱帯夜の日数が昭和 45～54 年（1970 年代）は 15（日/年）程度であったのに対し、平成 12 年以降（2000 年代）には 30（日/年）程度と倍近くに増加している。

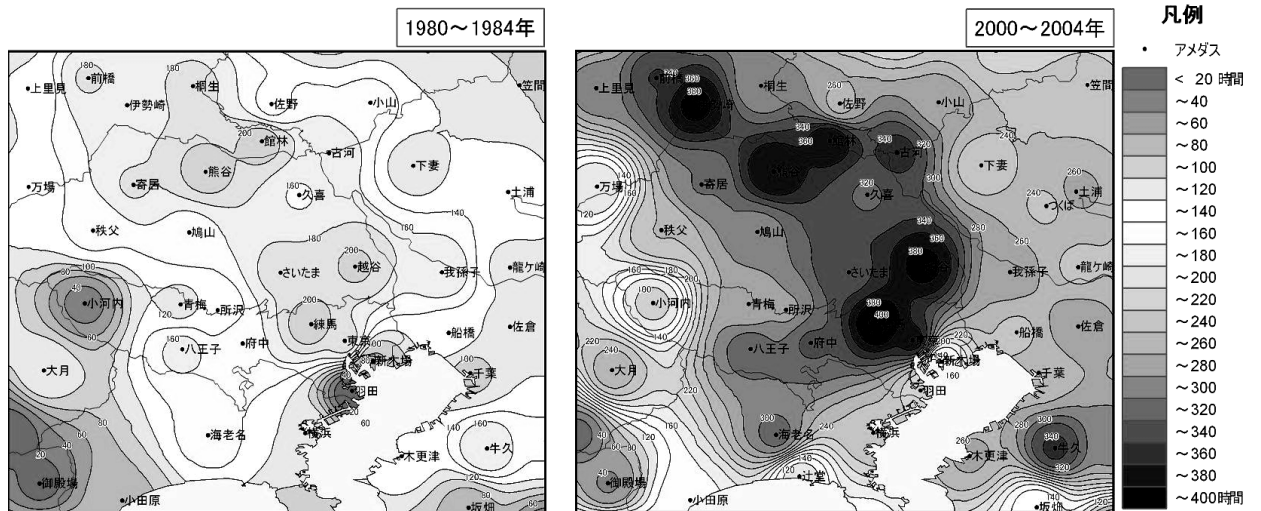
関東地方における 30℃を超えた延べ時間数の広がりを見ると、昭和 55～平成元年（1980 年代）には 300（時間/年）以上の地点は見られなかったのに対し、平成 12 年以降（2000 年代）では 400（時間/年）近くの地点が複数見られる。これより、真夏日（最高気温が 30℃を超える日数）は近年、増加傾向にあるといえる。

◆ 東京の熱帯夜日数の推移 (5年移動平均)



出典：東京都環境局ホームページ

◆ 関東地方における 30℃を超えた延べ時間数の広がり (5年間の年間平均時間数)



出典：環境省ホームページ